

牛久：学校周辺に見る自然

第9号 みずべ公園

2016年7月26日発行

く 初夏のみずべ公園・生きもの観察 ～⑦植物に集まる虫たち - その他の植物>

こんにちは。5/12 ひたち野うしく小4年生と歩いたみずべ公園、前号までキク科の仲間しょうかいを紹介しました。今回は、それ以外の植物と虫たちです。



ギンギシの葉を食べるコガタリハムシ。幼虫ようちゆうもギンギシの葉を食べ、レース状に葉脈じまうだけが残ることも多い。



観察ビンゴシートに「穴のあいた葉」というのがありみんなで探しましたが、ほとんど葉脈ようみやくだけになってしまったギンギシの葉がありましたね。よく見ると、甲虫こうちゆうの仲間がびっしり。コガタリハムシでした。幼虫ようちゆうもギンギシの葉を食べます。

そして、左のギンギシには、黒いかたまりにクロヤマアリが集まっていました。よく見ると、黒いかたまりはアブラムシ。アリたちは、アブラムシが出す甘いあまつゆをもらっているのです。ギンギシの汁しるを吸うアブラムシから、甘いあまつゆをもらうクロヤマアリ。



ケキツネノボタン（左）と、その蜜みつや花粉かふんをなめるホソヒメヒラタアブのオス（右）。

続いて、田んぼのあぜなどしめりけの多いところに見られるケキツネノボタン。体長7 mm程度たいちようのとても小さなハナアブの仲間、ホソヒメヒラタアブが蜜みつや花粉かふんをなめていました。



マメグンバイナズナの蜜や花粉をなめるハエの仲間（左）と、ホソヒラタアブ（右）。

次は、アブラナ科の仲間であらゆる北アメリカからやって来たマメグンバイナズナ。ナズナの仲間がなぜアブラナ科なのかは、花を虫めがねでよく見ると分かるでしょう。色や大きさは違っても、花のつくりはとともよく似ています。ハエやハナアブの仲間が来ていました。



こちらの小さくすだまのような花にも、ホソヒメヒラタアブが来ていました。花はその名もクスタマツメクサ、マメ科の小さな花が50個くらい集まり、直径1.5cmほどのくす玉状になります。という、このハナアブがどんなに小さいか分かりますね。

西アジア～北アフリカ原産のマメ科の仲間、クスタマツメクサの蜜や花粉をなめる、ホソヒメヒラタアブ。



風にゆれるシダレヤナギの葉には、虫こぶとさなぎがついていました。虫こぶはシダレヤナギハオオコブフシといって、ハバチの仲間が寄生してできたもの。さなぎはヤナギハムシのさなぎです。テントウムシのさなぎにちよっぴり似ていますが、たまごや親の姿も少し似ています。

シダレヤナギにシダレヤナギハオオコブフシ（左：ハバチの虫こぶ）とヤナギハムシのさなぎ（右）。



最後にハグロハバチ。幼虫はギシギシの葉を食べているのをよく見かけますが、この成虫はイタドリの葉にいました。以前にもイタドリで見かけたと思い調べてみたら、幼虫が食べるのはギシギシだけでなく、スイバやイタドリも食べるということでした。【理科支援員：宮内】